

5年生 道徳学習指導案

- 1 主 題 ハンセン病に対する偏見の誤りに気づき、だれもが安心できる社会をめざそう
道徳の視点 C - 13 (公正、公平、社会正義)
人権の視点 2 - (2) -ア

- 2 資 料 真実を知る大切さ (自作)

3 主題設定の理由

- 本学級児童は、これまでにいじめ問題や障がい者問題等の学習を通して、差別をしたり偏見をもったりしてはいけないことは知っている。しかし、正しい情報を知らずに、間違っただらうわき話を信じて正しい判断ができない児童も多く見られる。また、社会の中にある様々な人権課題に目を向け、おかしいことや間違っていることに気づく児童も増えてきているが、そのような問題に関して積極的に関わっていかようとする児童は少ない。ハンセン病については、新聞やニュース等で取り上げられているが、身近な問題ではなく、関わりがないために多くの児童は知らない。ハンセン病について正しい理解がされていなかったために社会から差別されていたこと、「らい予防法」が廃止されて20年以上経つが、ハンセン病が治っても未だに家族と離れて生活したり、生まれ故郷に帰れずに生活をしたりしている方がいるという実態を知っている児童はいない。
- 本資料は、ハンセン病の後遺症により、顔や手足など目に見える部分に障がいが残ったり、手足がうまく使えなかったりすることで社会から差別をうけてきた人々が、みんなと同じ社会で生活を送りたいという強い願いが描かれている。元ハンセン病患者の方々は、長年にわたって孤立した島の療養所での生活を強いられていたが、本土と療養所を結ぶ橋ができたことや「らい予防法」が廃止されたことにより、みんなと同じ社会で生活ができるという社会復帰へ大きな期待をしていた。それにも関わらず、差別がいつこうになくならないのは、人々のハンセン病に対する正しい理解がなく、間違っただら考えが根強く残っているからである。そのような間違っただら考え方をもち社会や差別する人の心の弱さに気づかせることができる。また、物事を正しくとらえ判断するために、正しい知識をもつことの大切さを学ぶために適した資料である。
- そこで指導に当たっては、前時でハンセン病の病気の症状、ハンセン病患者に対する当時の世間の見方や家族のあり方など時代背景をおさえる。そして、本時では、「人間回復の橋」とは、何が回復したのかを考えさせる中で、今まで分断されていた生活のつらさから橋がかけられて交流できるという希望や喜びの気持ちに迫らせたい。元ハンセン病患者たちの社会に出て生活したいという強い願いが、運動を継続させ、「らい予防法」の廃止につながり、強制隔離政策が終了したことを知らせる。さらに、法律が廃止されても、ハンセン病に対して無知なために差別をする人がいる反面、正しい知識をもち、正しく判断できる人も増えてきていることにより社会が少しずつ変化してきていることにも気づかせたい。偏見をもつのではなく、様々な情報に対して正しい知識をもつことの大切さをおさえ、元ハンセン病患者の話聞くことで、その人たちの本当の思いや願いを感じ取らせたい。

4 人権の視点 【障がい者・高齢者】

元ハンセン病患者の人々の思いや願いを知り、互いを認め合い尊重しあうことは、豊かな共生社会の実現につながる。また、障がい者に対して正しい知識をもって接することは、すべての人にとって住みやすい社会、さらに差別のない明るい社会を作る一歩になる。

5 指導計画

- 第1時 ハンセン病について知る
第2時 真実を知る大切さ (自作) … 本時

6 本時の目標

- ハンセン病の人の思いや願いを知り、偏見の目をもって接することの誤りに気づき、すべての人が住みやすい社会にしようとする意欲をもつ。

7 学習展開

児童の活動	指導上の留意点・支援 (◎評価)	備考
1 ハンセン病について前時をふり返る。 ・差別されていた ・みんなと同じ生活が送れなかった	○ハンセン病の症状、当時の世間の見方や家族のあり方など時代背景をおさえながら、前時をふり返らせる。	(一斉) ・写真
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 心が温かくなったのは、どうしてだろう </div>		
2 ハンセン病患者やその家族の思いについて考え、話し合う。 (1)療養施設と本土の間に橋がかけられた時「人間回復の橋」 ・みんなと同じ生活が送れる ・これで周りから差別されなくていい ・家族みんなで幸せな生活が送れる (2)「らい予防法」が廃止された時 ・どうして自分たちだけが、こんな生活をしないでいけないのか ・何とかしてみんなと同じ生活を送りたい ・社会に出て生活をしたい (3)宿泊を拒否された時 ・どうしてそんなことを言われなくていけないのか ・同じ人間なのにどうして宿泊できないのか ・法律によって解決したはずなのに	○今まで人間としての当たり前の生活を送ることができず、分断されて生活していたつらさを考えさせることで、橋がかけられた時の気持ちに迫らせる。 ○長い年月をかけて「人間回復の橋」ができたことにより、何が回復したのかを考えさせる中で、喜びや希望を感じ取らせる。 ○何とかして人間として当たり前の生活を送りたいという強い願いが、運動を継続させる力になったことに気づかせる。 ○「らい予防法」の廃止により、強制隔離政策が終了したことを知らせる。 ○なぜ宿泊を拒否されたかを考えさせ、同じ人間として許せない憤りを感じ取らせる。 ○正しい知識をもっている人がいなかったり、間違った知識で判断している人がいたりしたということをおさえる。 ○未だに差別が残っているのは、人の心の中に差別する弱い心が残っていることに気づかせる。 ◎ハンセン病に対して偏見の目をもって接することの誤りに気づくことができたか。	(一斉) ・資料 ・写真
3 介護施設で出会った人との会話を通して、心が温かくなった理由を考える。 ・同じ人間としてみている ・正しく見ている ・同じ社会で生活している	○正しい知識を身につけ、正しく判断できる人が増えてきていることにより、少しずつ社会が変化してきていることに気づかせる。 ○無知なために差別をうんでいたことを考えさせることで、正しい知識を身につけ、正しい判断をすることの大切さをおさえる。	(グループ) ↓ (一斉)
4 元ハンセン病患者さんからの手紙を読み、感想をワークシートに書く。	○元ハンセン病患者さんの手紙を読み、思いや願いを知り、ワークシートに書かせる。 ◎ハンセン病の人の思いや願いを知り、すべての人が住みやすい社会にしようとする意欲をもつことができたか。	・手紙 ・ワークシート (個別) ↓ (一斉)